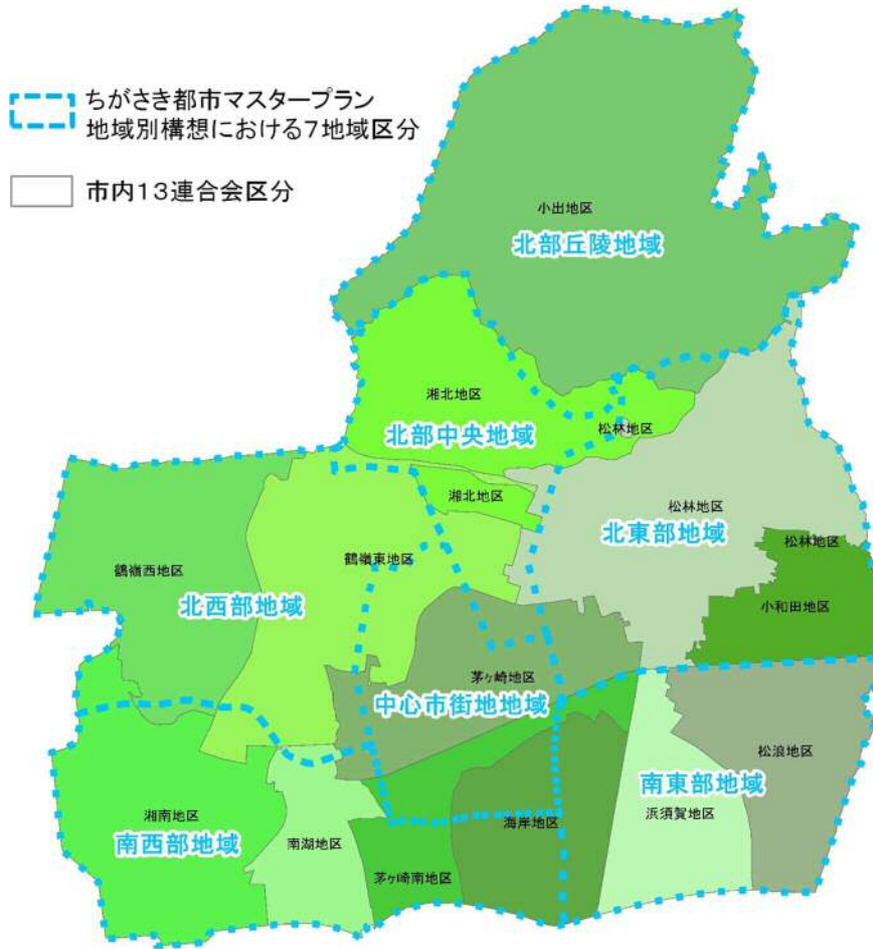


6-3 建築物系公共施設（地域別の基本的な方針）

本市が管理・運営を行う公共施設を対象に、各地域の現状と課題について、市内13連合会区分別人口の年齢層ごとの割合や将来見通し、地域別・利用圏域別施設保有状況、施設の配置や老朽化の状況、貸室などの利用状況などをもとに整理し、総量縮減及び施設配置の適正化の観点から、施設類型別の方針や本市の「総合計画」、「ちがさき都市マスタープラン」などの将来都市構造などを考慮し、今後想定される施設再配置の方向性を示します。



(1) 地域別人口と施設整備状況

①地域区分別人口

市内 13 連合会区分別の人口を確認すると、人口規模・人口構成で地域によって特性が見られることがわかります。

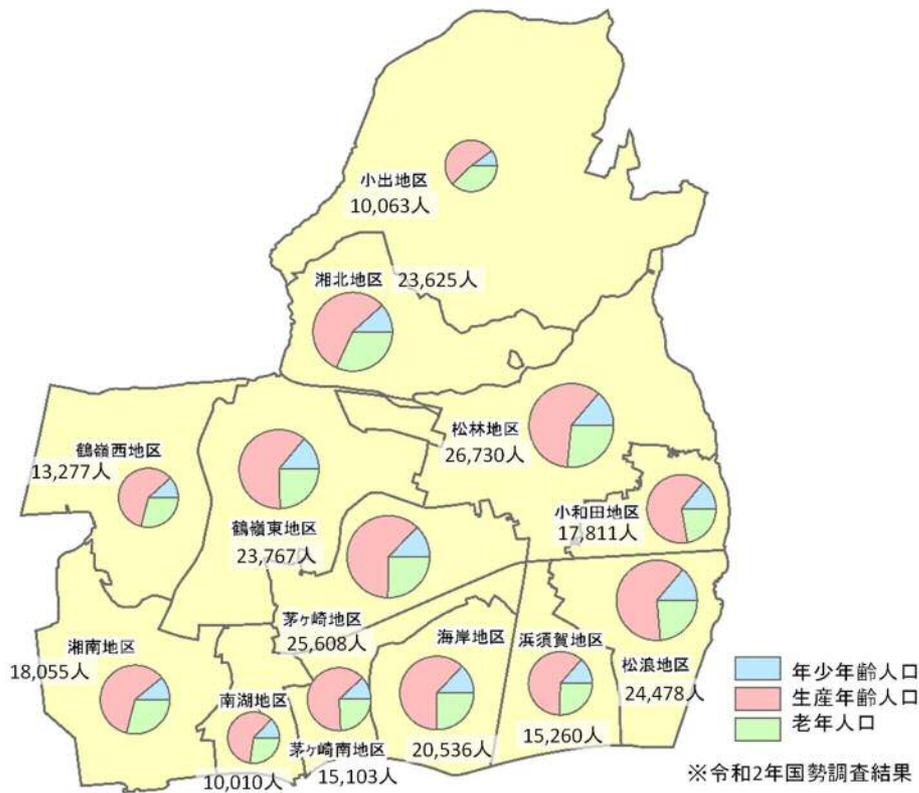


図 6-80 地域区分別人口

②地域別・利用圏域別施設保有状況

地域別・利用圏域別保有状況を以下に示します。茅ヶ崎地区の施設保有量が他の地区と比較して突出していますが、地域施設に着目すると、他の地区と同程度の保有量であることがわかります。

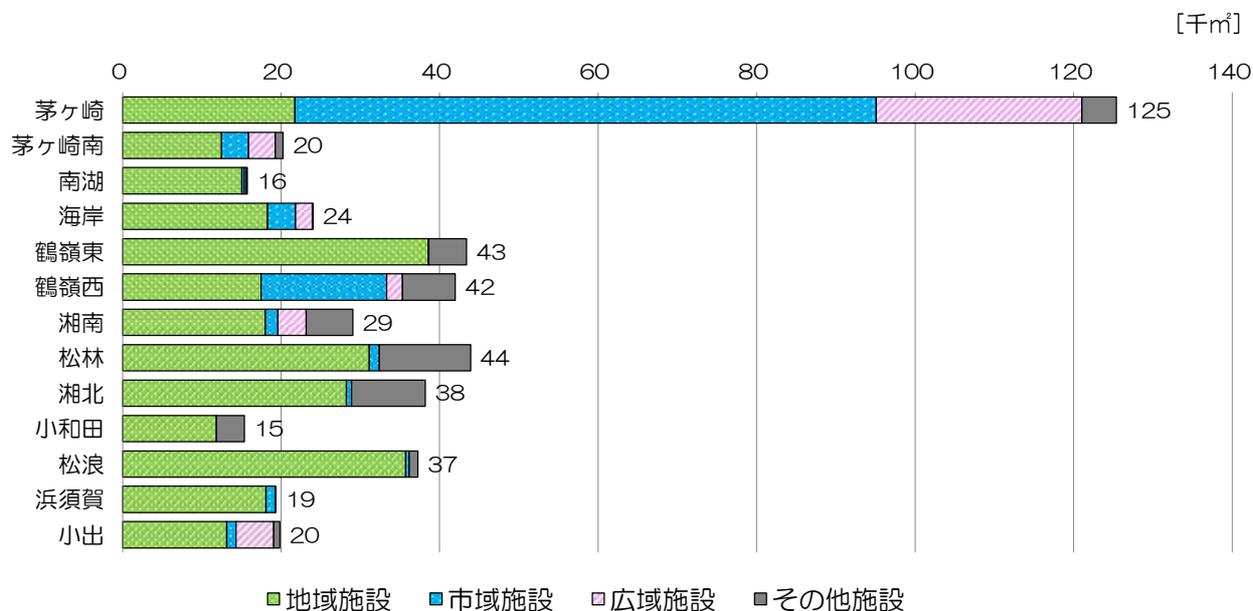


図 6-81 地域区分別利用圏域別の延床面積

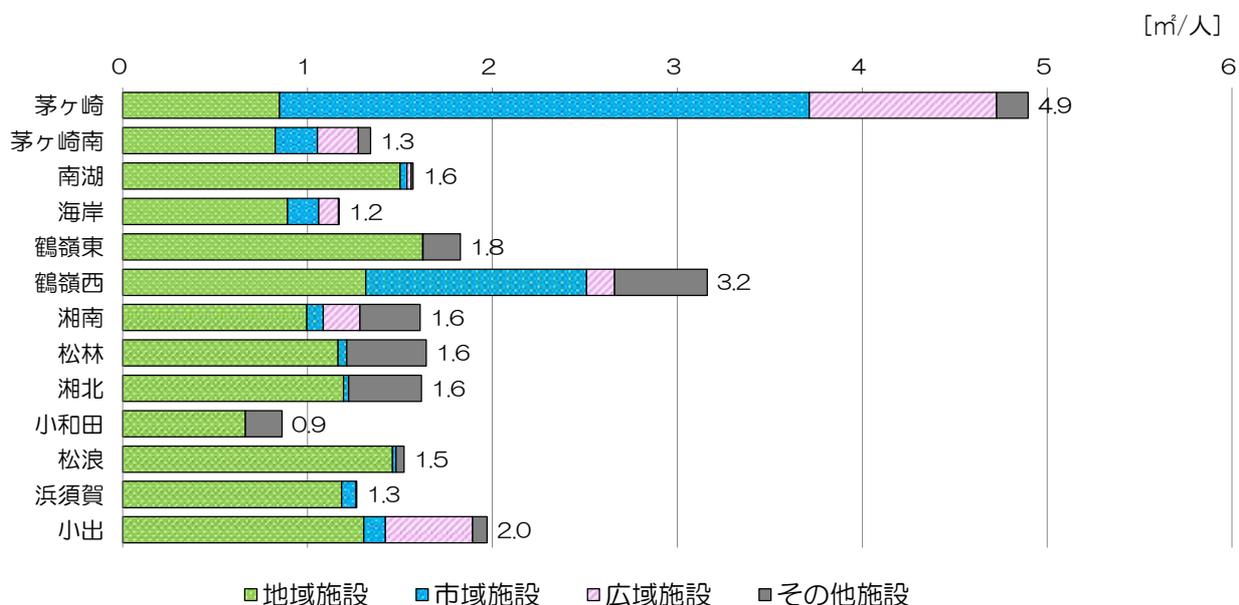


図 6-82 地域区分別利用圏域別の人口一人あたりの延床面積

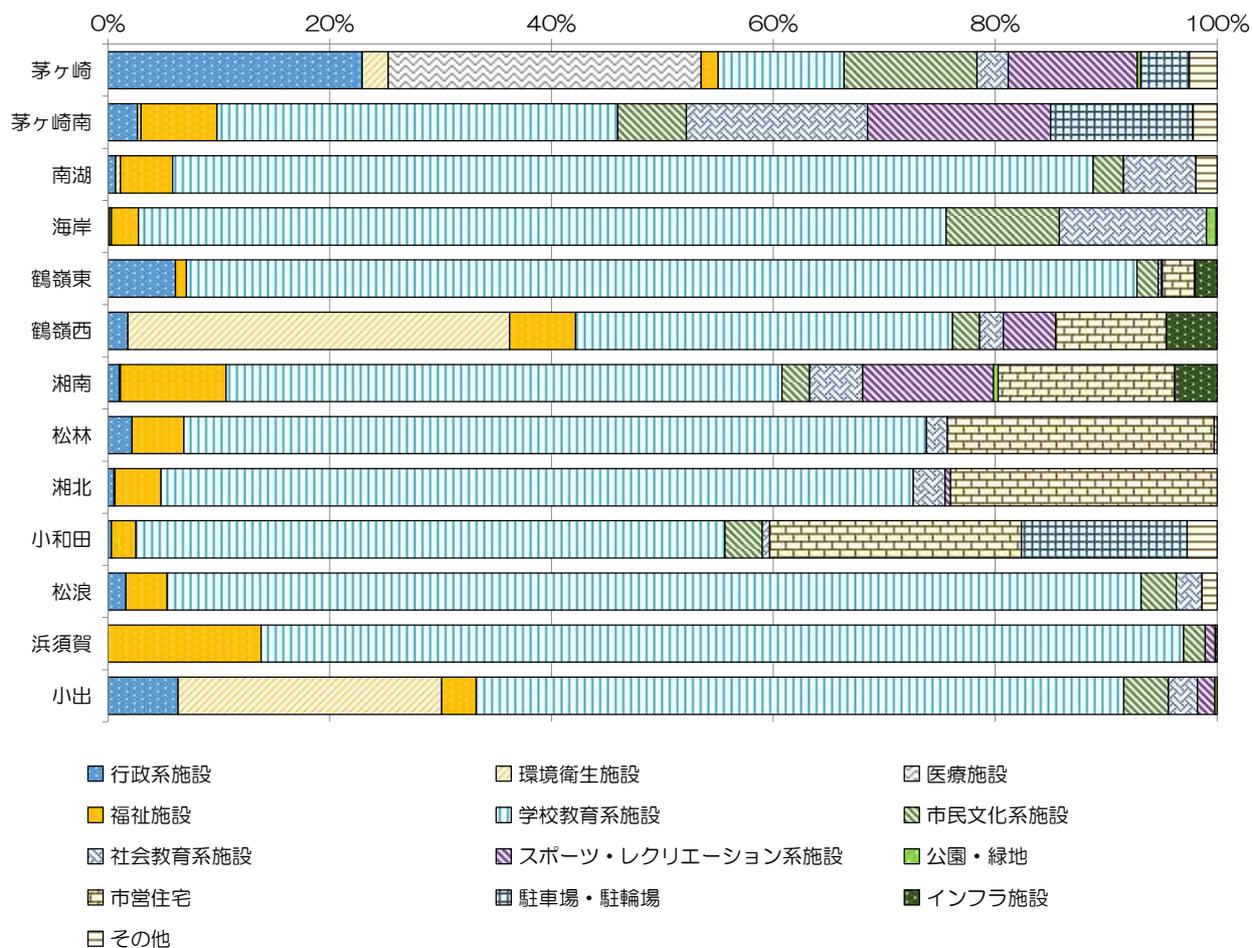


図 6-83 地域区別施設分類別延床面積割合

(2) 施設の再配置の考え方

- 再配置により多様な機能が集約されることで、サービスのワンストップ化を図るなど、市民の利便性向上と業務効率化を目指します。
- 各地域の人口構造や市民ニーズ、各施設の利用圏域などを踏まえ、圏域の重複解消による効率的な配置や近隣自治体との広域化などの可能性を検討します。
- 主に各種イベントや講座、生涯学習活動などに利用されている貸室機能を有する施設については、利用用途が類似していることから、地区内又は周辺地区内を含め、施設の配置、老朽化及び利用状況などを勘案し、周辺施設との統廃合・複合化・集約化などの検討を進めます。

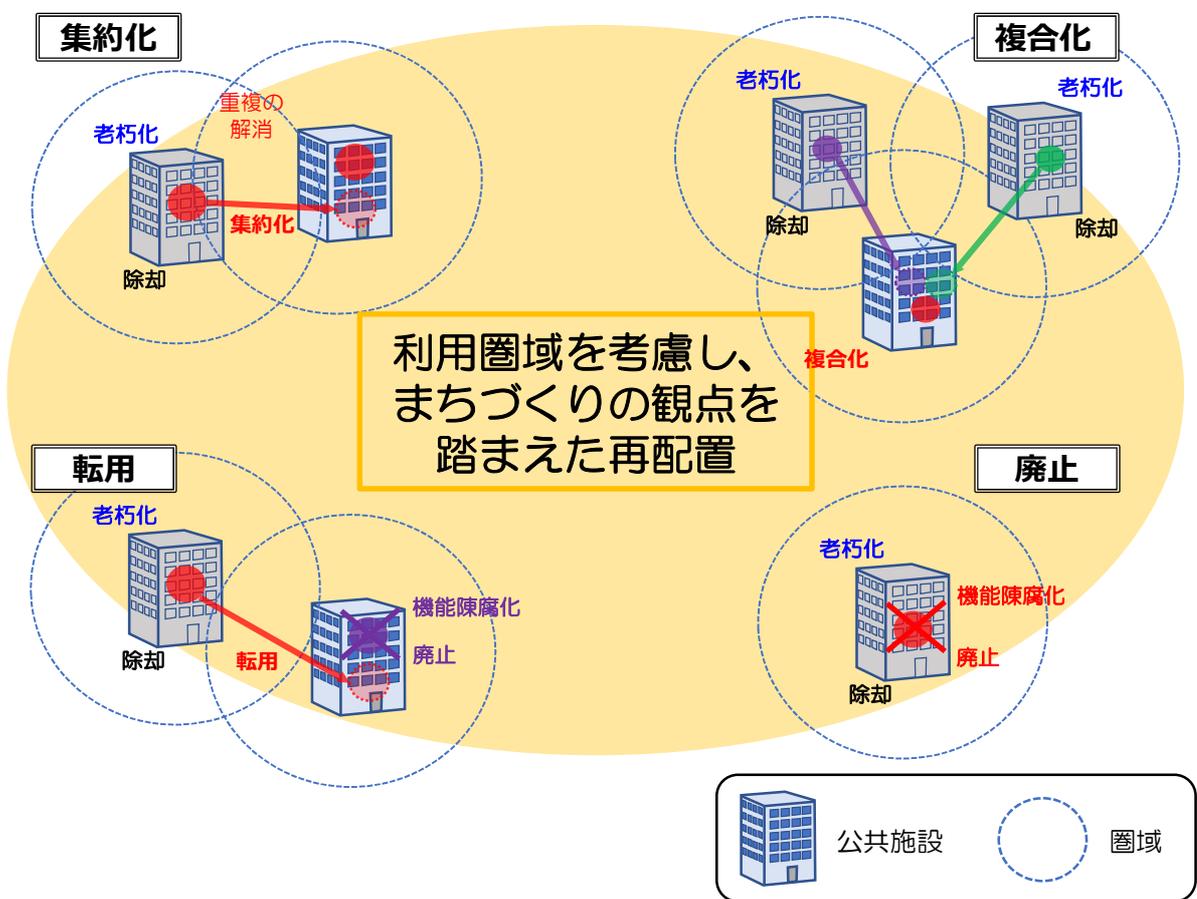


図 6-84 再配置のイメージ